



色彩館に咲く

ジンチョウゲ

Daphne odora

ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属
原産地：中国および日本

匂いたつ春の香り

ジンチョウゲは高さ 1mほどになる雌雄異株の常緑低木です。2～3月ごろに上品な芳香を持った星形の小さな薄ピンク色の花を咲かせます。和名では「沈丁花」と書き、お香などで有名な沈香と、スパイスでなじみのある丁字（クローブ）に似た香りがする事からきています。更に、学名の *Daphne* は神話に登場する女神ダフネの名にちなみ「良い香りのする妖精」という意味を、*odora* は「芳香」という意味を持ちます。他にも中国では瑞香や千里香と呼ばれ、いくつもの香りに由来する名前がついていることから、その香りで春の訪れを告げる花である事がうかがえます。

そんなジンチョウゲが日本に渡ってきたのは室町時代、中国から雄株のみが渡来したといわれています。雌株がないと実をつけませんので、実生ではなく挿し木で殖やし普及していきました。近年雌株も導入され、実がなる所も見ることができるようになりましたが、毒性があるため食べる事はできませんので気をつけましょう。ただし花は「瑞香花」という漢方薬として使用されています。



北海道では屋外で越冬できないジンチョウゲですが、ナニワズという同属のものは北海道でも越冬できる耐寒性を持っています。花は黄色で、ほのかに芳香性もあり、ジンチョウゲと比べ楚々としている印象があります。ナニワズは暑さに弱く、夏に落葉し休眠します。そして秋に新葉が展開し、初冬には蕾をつけてそのまま越冬する少し変わった植物です。夏に落葉することから「ナツボウス」とも呼ばれ、また樹皮が丈夫で柔軟であることから鬼を縛ることができるという意味で「オニシバリ」とも呼ばれます。

同属でも様々な特徴を持つジンチョウゲは、約90品種がアジアからヨーロッパにかけて幅広く分布しています。ヨーロッパが原産の種は日本では高温・多湿のために栽培が難しいものもありますが、一般にジンチョウゲは適度な湿気のある、涼しい場所を好みます。

色彩館の大温室では、今年も順調に蕾をつけ、少しずつ咲き始めています。心が浮き足立つような春の香りをぜひ楽しみにいらしてください。



ようやく北国らしく雪が積もり、本来の雪景色になってきましたね。北国でのバラは外で栽培している場合、ほとんどが冬は雪の中です。バラにとって雪は空気を含んだ天然の断熱材でもあり、例えば気温がマイナス5度でも雪の中は0度くらいと、雪に埋もれていないほうが寒風による凍害などの危険性が増します。そのような凍害を最小限に抑えるために、当園では冬囲いの際に防風ネットやコモをバラに巻いています。ですが積雪量もこれまた問題で、多ければ春先に除雪をしなくてはならなくて、少なければバラの凍害が心配であり毎年ヒヤヒヤしています。ヒヤヒヤといえ、冬を越す前には、雪が積もるまでに冬囲いが終わるか、という問題もありましたが……なにはともあれ、雪の量と春からの天候次第で今年の株の状態と開花期が分かるので雪の量は少なからず、多すぎずと願うばかりです。



色彩館

大温室ではジンチョウゲが色濃く香り、ギンヨウアカシアやクリスマスローズ、様々な香りツバキなどが見られ花いっぱいです。今月 18 日からはいわみざわ洋らん展も開催されて、ますます賑やかになりそうです。

バラ園

雪の少ない年明けでしたが、1 月中に積雪深は平年並みになり除雪作業の日々です。ポットバラのお世話など春に向けた作業を着々とこなしています。色彩館のつるバラの剪定も昨年のうちに終了し、徐々に芽吹いてきています。咲く頃が待ち遠しいです。

花と緑の供給センター

年末に播種したパンジービオラや夏花のゼラニウムやペゴニアのポット上げ作業、またペチュニアの播種作業と何かとせわしない毎日ですが、無事に発芽してすくすく育っている花苗たちを見るとなんだか頑張れます。



文：MIZ

もぐり。

雪が少ないながらも、キンと冷える日々が続きますね。除雪作業やスキーなどの屋外で活動した後に食べるチョコレートは、至福の味ではないでしょうか。カカオの含有量が多いチョコレートは、ここでは書

ききれないほど様々な健康効果を持つ食品とされています。紀元前には、カカオ豆をすり潰し薬として飲んだという記録がある事からもその効果をうかがえますね。食べ過ぎるとニキビが出るといわれていますが、科学的には証明されていないらしいですよ。ただし、もう1つ有名な鼻血が出るというのは、チョコレートに血行をよくする成分が含まれている事から、あながち迷信ではないようです。いずれにしても、自分の適量を把握して食べ過ぎないよう気をつけましょう。

よし
なし
ごと

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第二十三回

ラージフラワー クライマー ローズ

ジャスミーナ

Jasmina

作出国：ドイツ

作出者：Kordes

作出年：2005 年

ハーディネスゾーン：Z5

返り咲き性

交配：実生 xCentenaire de Lourdes



花は優しいピンク色で中心は濃いピンク色、クォーターカップ咲きで8～10輪程度の房咲きです。花弁はハート型をしていて、ややうつむき加減に開花する可愛らしい雰囲気を持っています。またその花容を、ピエールドゥロンサールを小さくしたようだによく例えられ、なおかつオールドローズを思わせる上品さも兼ねそろえている花です。名前からジャスミンの香りを想像しますが、りんご系の香りがほのかにしっかりと香ります。花痛みも少なく、花が終わる頃には桜のようにひらひらと美しく散っていきます。枝がしなやかで多すぎず誘引もしやすく、下向きに花が咲くので特にアーチに誘引すると見上げて楽しむことができます。うどんこ病に強く、耐寒性もある強健な品種であり、初心者の人でも育てやすい品種です。

ジャスミーナの交配親のサントネールデュルルドも、強健で人気の高い品種です。名前のサントネールとは、フランス語で100年という意味で、カトリック教会の巡礼地となってい

る南フランスの町「ルルド」にある「ルルドの泉」が、100年を迎えたことを記念して名づけられたバラです。その交配を受け継いだジャスミーナもなにか由来しているものがあるのでは、と調べましたが特に由来はなく、ドイツでよく女性の名前に使われているそうです。可愛い花容から女性を連想させて名付けたのかもしれませんがね。

バラ園内花壇でも栽培されているジャスミーナですが、成長が穏やかな為なかなか新しいシュートが出ず、伸びがいまひとつ足りませんでした。しかし、昨年はジャスミーナの凍害がほぼなく、良いシュートが出はじめ、少しずつ株も大きくなっています。今年の越冬次第では昨年よりも見ごたえのある株になることと思います。少し遅咲きではありますが、他のバラ同様に最盛期の7月上旬頃には見ごろを迎えると思いますので、上品で可愛いジャスミーナを是非見に来てください。

今年も開催～！



入場無料！

第7回 いわみざわ洋らん展

日程 2015年2月18日(木)～
2015年2月21日(日)

時間：9:00～17:00(最終日は16:00まで)

場所：いわみざわ公園バラ園
室内公園色彩館ロビー

市民の方の出展も大歓迎です。丹精込めて
育てたあなたの一鉢を出展して、会場をいっ
ぱいらんの花園にしてみませんか？出展料
は何点でも無料です。

お申し込み：2月13日(土)までに
色彩館 0126-25-6111 まで

最終日
2/21(日)は
講習会も
あります！



2月の市民園芸講座のご案内

これは面白い！



- 2月21日(日) 9:30～12:00 いわみざわ公園のアニマルウォッチング
無料 定員：40名 講師：若林 信男さん 岩見沢野鳥の会会長
- 2月21日(日) 13:00～15:00 洋らん栽培の楽しみ方
無料 定員：40名 講師：川面 豊樹さん えるむ花園
- 3月13日(日) 13:00～15:00 家庭果樹の楽しい管理
無料 定員：40名 講師：内田 哲嗣さん 中央農業試験場
- 3月20日(日) 13:00～15:00 色彩館でスケッチしよう
無料 定員：10名 講師：藤川 志朗さん イラストレーター
- 3月26日(土) 10:00～12:00 ばらゼミ④バラの系統と特徴について
無料 定員：40名 講師：工藤 敏博さん ローズグローワー